

持続可能な岐阜CST事業の研修システムの構築

○後藤秀樹^A, 川上紳一^B, 小井土由光^C

GOTO Hideki, KAWAKAMI Shinichi, KOIDO Yoshimitsu

岐阜県教育委員会教育研修課（岐阜県総合教育センター）^A, 岐阜大学^{B,C}

【キーワード】 センター研修講座, 大学・博物館・研究団体との連携, 認定価値の向上, CSTの活用

1 目的

JSTからの支援事業により、大学と県教委が連携し各地区の中核となる理科教員の養成を図るシステムをつくることができた。支援事業が終了しても、この成果を生かし継続していかなくてはならない。そこで、持続可能な岐阜CST事業となるために研修システムを再構築した。

2 方法

(1) 県教委・大学・博物館・研究団体との連携

① 岐阜県総合教育センター研修講座へのCST養成プログラムの位置付け

- ・岐阜県総合教育センター主催の理科に係る研修をCST認定講座として認めた。その研修に、大学教授や博物館学芸員、研究団体（県小中理研）の研究委員長等を講座講師として依頼し連携を深めた。

ア 理科教育講座～CST中級プログラム～

- ・年4日間開催する。受講者が年間を通して行う個人研究を協議し、助言を行う。研究紀要を作成し、最終日の「科学教育シンポジウム」において研究発表を行う。
- ・講座講師：岐阜大学教授（各回）
- ・講演会：岐阜女子大学教授（第1回）
- ・講演会：文部科学省教科調査官（第4回）

イ 博物館連携講座

- ・講座講師：博物館等施設の学芸員

ウ 小学校理科観察実験技能向上講座

- ・理科を専門としない小学校教員を対象とした講座をCST中級認定者が講師となり実施する。（上級プログラム）

② CST協議会、CST研修会における岐阜大学教授の講座や野外研修会

(2) CST認定価値の向上

① 認定基準の明確化

- ・研修講座の受講数、論文作成数、研究会発表・指導助言等講師実績数を認定条件として明確にした。また、受講者の自己評価、指導主事による評価も位置付けた。

【中級プログラム】

- ・理科教育講座（必須）論文作成
- ・「知識技能講座」（1単位以上）
- ・実践論文（3編以上）
- ・自己評価・指導主事評価（4観点から）

【上級プログラム】

- ・CST中級認定者（中級プログラム受講）
- ・指導者研修講座（1単位以上）
- ・実践論文（5編以上）
- ・研究会等の指導・発表の実績（10回以上）
- ・自己評価・指導主事評価（4観点から）

② 県教委・大学・研究団体と連携した厳正な認定審査と承認

③ 市町村教委、所属長への認定書の通知及び授与依頼

④ 市町村教委への認定者活用依頼

3 成果

大学との連携が密になり、質の高い研修を行うことができるようになった。5年間で、上級36名中級27名が認定され、本年度、上級6名中級21名が受講者として研鑽している。県内においてCSTについての認知度が高まっている。CSTとしての自覚とやりがいを持ち、地域のリーダーとして理科教育を向上させていこうとする気運が高まりつつある。

4 考察

支援事業が終了し、大きな問題となるのは予算である。しかし、従来からあった岐阜県総合教育センター主催の研修を主としながら大学の専門的学術、施設の協力を得ていくことで、質の高い研修を維持することができる。また、県教委の厳正な認定審査とCST認定者の積極的な活用により、CST認定価値を高めていくことも、持続可能なCST事業となる大きな要因であると考えられる。